

## プレスリリース

発信者 公益財団法人 日本健康・栄養食品協会

理事長 下田 智久

〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 2-7-27

TEL:03-3268-3134 FAX:03-3268-3136

e-mail:shogaikouho@jhnfa.org

http://www.jhnfa.org

発信日 平成 28 年 4 月 1 日 (金) 渉外広報室

## トクホ市場 6391 億円 前回を上回り、過去 2 番目の規模に伸長

### = 特定保健用食品の市場および表示許可の状況 =

特定保健用食品制度は 1991 年（平成 3 年）の発足から 24 年が経過し、国が健康強調表示を許可・承認する制度として国際的にも注目されています。

1993 年（平成 5 年）に表示許可第 1 号の商品が誕生し、2016 年 3 月末現在、特定保健用食品として表示許可・承認された食品は 1238 品目となっています。

当協会は特定保健用食品の制度発足以来、食品業界に対して許可取得のための関係省庁の行政方針および関連情報の入手・伝達を始め申請相談等の支援活動を進めるとともに、健康食品全般について消費者および関係先への情報提供等の活動を展開して参りました。

その一環として 1997 年度から特定保健用食品の市場規模調査を実施し、行政・学術関係者、国内外のマーケティング関係者など各方面に資料として提供しております。

この度、2015 年 12 月から 11 回目のアンケート調査を実施しましたので、その集計結果を中心に市場規模の推定とともに、表示許可等の現状についてご報告させていただきます。

本報告の作成に当たり、当協会会員をはじめとした特定保健用食品を開発、販売している各企業から多大のご協力をいただいたことに深く感謝いたします。



本件に関するお問い合わせは 公益財団法人 日本健康・栄養食品協会 特定保健用食品部 矢吹、中澤（TEL 03-3268-3132）または渉外広報室 福本（TEL 03-3268-3134）にお願いします。

## I. 市場規模調査

### 1. 調査方法

特定保健用食品の表示許可を取得した企業に対して、アンケート方式で2015年度の品目別販売見込額および販売経路別市場構成について調査を実施した。

アンケートは2015年12月末現在許可取得の1210品目を持つ全企業197社を対象として行った。そのうち1200品目、189社からアンケートを回収し（回収率95.9%）、1194品目、189社について回答が得られた。

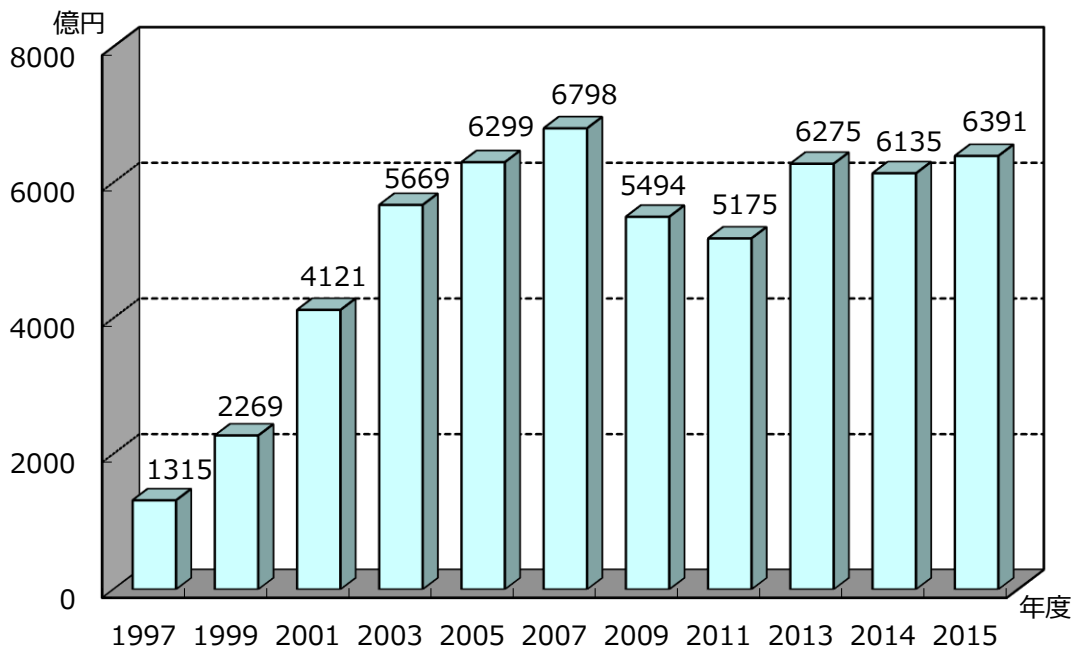
売上げ見込み額の詳しい情報が得られなかった品目については、それぞれ業界内の生産、販売統計その他から当協会が推定した。

特定保健用食品の市場規模調査は1997年度から2013年度までは隔年で実施していたが、2014年度からは毎年実施している。

### 2. 集計結果

#### (1) 市場規模

図1. 特定保健用食品の市場規模の推移



## (2) 保健の用途別市場概況

保健の用途別の市場規模の推移は以下のとおりであった（表1）。

**整腸**：「整腸」全体としては、調査開始以来、2005年度まで調査毎に上昇し続けていたが、2007年度から2011年度まで減少傾向が続いた。その後、2013年度に大幅に増加し調査開始以来の規模となったが、2014年度はやや減少し、2015年度は前年度に比べ108.3%と再び増加した。

「整腸」の中心となる乳酸菌関連品目は、全体とほぼ同様に推移しており、2007年度以降の減少傾向から一転し、2013年度は大幅に増加しピーク時の2005年度を上回った。2014年度は減少したが、2015年度は前年度に比べ109.7%と再び増加した。

オリゴ糖関連品目は、2013年度は2011年度の2倍以上と大幅に増加し、2014年度はさらに増加したが、2015年度は前年度に比べ96.0%とやや減少した。

食物繊維関連品目もオリゴ糖関連品目と同様に増減を繰り返しており、2014年度は調査開始以来の規模となったが、2015年度は前年度に比べ92.4%とやや減少した。

**コレステロール**：調査開始以来、着実に増加を続けていたが、2013年度に初めて減少傾向を示し、2014年度もやや減少したが、2015年度は前年度に比べ103.7%とやや増加した。

**血圧**：調査開始以来、増加傾向を示していたが、2007年度をピークにやや減少した。2011年度はピーク時に近い水準まで回復し、その後、減少傾向を示しており、2015年度は前年度に比べ88.3%と引き続き減少した。

**骨・ミネラル**：調査開始以来、増減を繰り返していたが、2009年度をピークに減少傾向を示しており、2015年度も前年度より96.6%とやや減少した。

**歯関連**：1999年度調査に初めて登場し増加を続けていたが、2005年度をピークに2013年度まで減少を続けていたが、2014年度はやや増加し、2015年度は前年度に比べ105.5%とやや増加した。

**血糖値**：2001年度から大幅に増加し、2003年度をピークに減少傾向であったが、2015年度は前年度に比べ118.2%と増加した。

**中性脂肪・体脂肪**：歯関連と同様に1999年度調査に初めて登場し増加を続け、2007年度をピークに減少したが、2011年度以降再び増加し、2014年度は調査開始以来の規模となった。2015年度は前年度に比べ98.8%とほぼ横ばいであった。

保健の用途別の構成比は2014年度と同様に「整腸」が53.5%と最も大きく、「中性脂肪・体脂肪」が29.9%と続いた（図2）。全体の構成比として2015年度は前年度に比べほぼ横ばいであった。

表 1. 保健の用途別市場規模の推移

年度

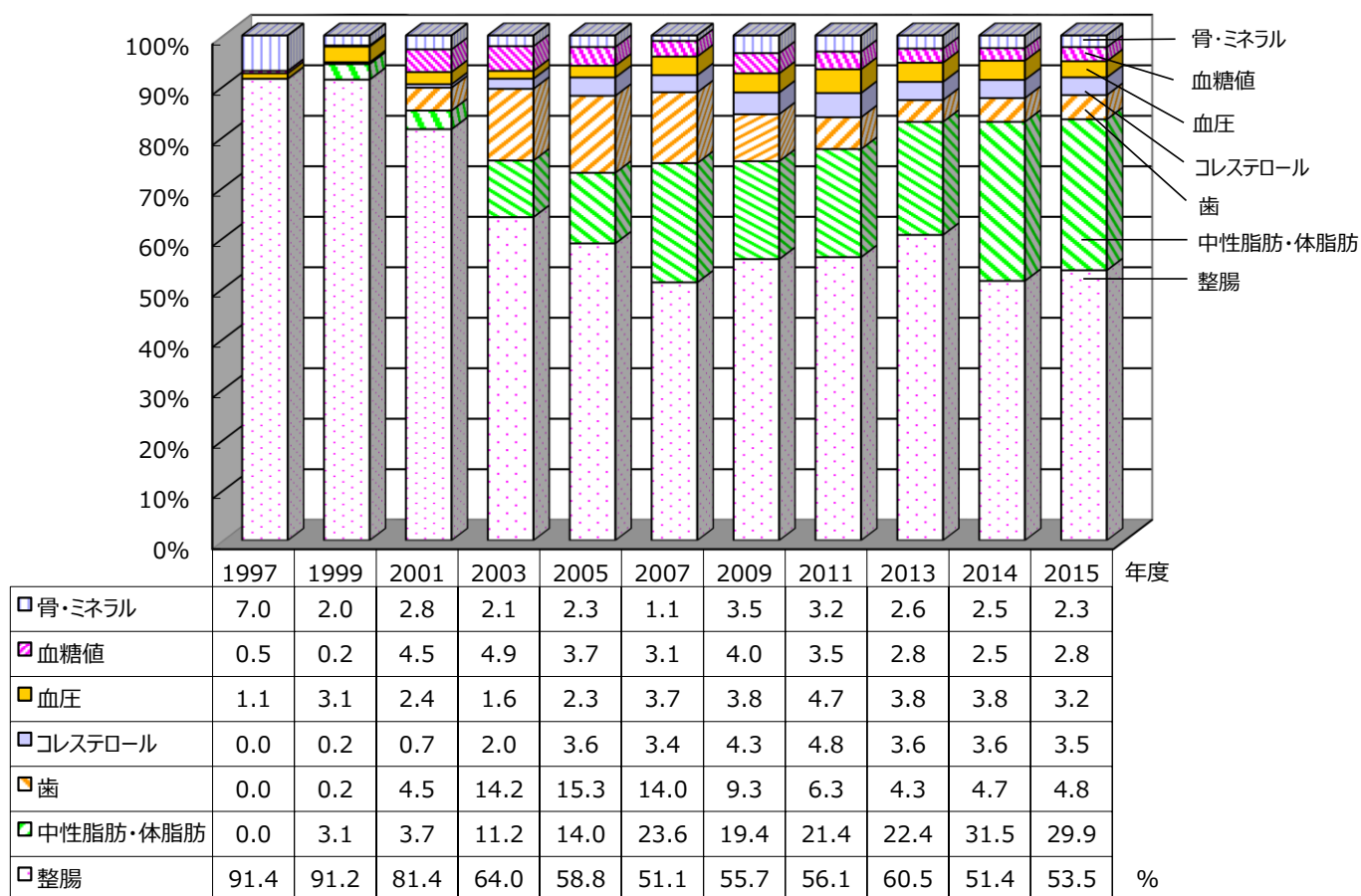
		1997	1999	2001	2003	2005	2007	2009
		億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円
整腸	オリゴ糖	103.7	91.1	56.2	66.8	58.9	71.8	34.0
	乳酸菌*1	978.8	1863.0	3171.1	3420.8	3516.8	3249.3	2925.6
	食物繊維	119.1	115.5	128.1	141.8	129.9	152.5	104.6
	小計	1201.6	2069.6	3355.4	3629.4	3705.6	3473.6	3064.2
コレステロール		0.3	4.3	27.9	113.6	228.0	230.3	234.4
血圧		13.8	71.6	100.0	88.1	147.7	250.5	208.2
骨・ミネラル		92.0	44.9	113.9	120.1	143.3	73.3	192.6
歯		0.0	3.7	186.7	804.8	961.0	954.0	512.0
血糖値		6.7	5.2	184.3	277.4	232.9	210.5	215.9
中性脂肪・体脂肪		0.0	70.0	152.4	635.4	880.7	1606.0	1067.1
合計		1314.5	2269.3	4120.6	5668.8	6299.2	6798.2	5494.4

		2011	2013		2014		2015	
		億円	億円	11比(%)	億円	13比(%)	億円	14比(%)
整腸	オリゴ糖	29.6	68.5	231.5	84.1	122.9	80.8	96.0
	乳酸菌*1	2764.2	3562.1	128.9	2874.7	80.7	3153.5	109.7
	食物繊維	107.0	165.4	154.5	197.3	119.3	182.3	92.4
	小計	2900.8	3796.0	130.9	3156.1	83.1	3416.6	108.3
コレステロール*2		248.8	224.3	90.1	218.1	97.2	226.2	103.7
血圧		244.9	241.0	98.4	232.4	96.4	205.2	88.3
骨・ミネラル*3		166.7	160.3	96.2	154.2	96.2	149.0	96.6
歯*4		325.9	272.4	83.6	288.6	105.9	304.5	105.5
血糖値		180.5	176.6	97.9	154.0	87.2	181.9	118.2
中性脂肪・体脂肪*5		1107.3	1404.6	126.8	1931.7	137.5	1907.9	98.8
合計		5174.9	6275.2	121.3	6135.1	97.8	6391.3	104.2

\*1 菌類含む, \*2 コレステロール+整腸含む, \*3 疾病リスク低減表示含む, \*4 はぐき含む,

\*5 中性脂肪+体脂肪、体脂肪+コレステロール、血糖値+中性脂肪含む

図2. 保健の用途別市場構成の推移



## II. 販売経路別および食品の種類別市場構成

### 1. 販売経路別市場構成

販売経路別の市場構成は、調査開始以来、「スーパー」、「コンビニ」が全体の約 5.5～6 割を占め推移しているが、2015 年度は前年度に比べ「スーパー」がやや減少した（表2）。

「戸配」は、調査開始以来、2009 年度を除き約 3 割を占めて推移し、2013 年度から減少傾向であったが、2015 年度はやや増加した。

「ドラッグ・薬局」は、2013 年度は大幅に増加し、構成比率もほぼ倍増したが、2014 年度から減少傾向に転じており、2015 年度もやや減少した。

「通信販売」は、構成比率は小さいまま推移しており、2007 年度以降増加傾向であったが、2015 年度はほぼ横ばいであった。

表2. 販売経路別市場構成の推移

年度

販売経路*	1999	2001	2003	2005	2007	2009	2011
	%	%	%	%	%	%	%
スーパー	49.4	47.2	40.3	42.3	42.5	43.8	39.3
コンビニ	12.6	14.6	15.6	14.7	16.0	16.2	13.5
戸配	30.8	30.8	34.4	32.8	33.2	26.5	30.7
ドラッグ・薬局	4.1	3.8	3.0	3.1	2.7	5.4	5.9
通信販売	0.7	1.0	0.8	0.7	0.9	2.4	3.1
その他	2.4	2.6	5.9	6.4	4.7	5.7	7.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

販売経路*	2013		2014			2015		
	億円	%	億円	%	13比(%)	億円	%	15比(%)
スーパー	2521	40.2	2558	41.7	101.5	2435	38.1	95.2
コンビニ	889	14.2	984	16.0	110.8	1037	16.2	105.4
戸配	1502	23.9	1246	20.3	82.9	1567	24.5	125.9
ドラッグ・薬局	662	10.5	448	7.3	67.8	441	6.9	98.6
通信販売	179	2.9	241	3.9	134.7	242	3.8	100.4
その他	523	8.3	658	10.7	125.9	668	10.5	101.6
計	6275	100.0	6135	100.0	97.8	6391	100.0	104.2

\* 2009年度までは、販売経路選択は複数回答としている。

## 2. 食品の種類別市場構成

食品の種類別の市場構成を4種類に区分して調査を行った(表3)。

「清涼飲料水」の市場構成は前年度に比べ98.9%、「加工食品・調味料」は前年度に比べ98.1%とほぼ横ばいとなり、「乳製品」は109.3%、「菓子・その他」は103.8%とやや増加した。全体の構成比として2015年度は前年度に比べほぼ横ばいであった。

表3. 食品の種類別市場構成の推移

年度

食品の種類別	2007		2009		2011		2013	
	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%
清涼飲料水	1665	24.5	1315	23.9	1247	24.1	1797	28.6
乳製品	3285	48.3	3012	54.8	2840	54.9	3635	57.9
加工食品・調味料	879	12.9	599	10.9	636	12.3	428	6.8
菓子・その他	969	14.3	568	10.4	452	8.7	416	6.7
合計	6798	100.0	5494	100.0	5175	100.0	6275	100.0

食品の種類別	2014			2015		
	億円	%	13比(%)	億円	%	14比(%)
清涼飲料水	2315	37.7	128.8	2290	35.8	98.9
乳製品	2927	47.7	80.5	3198	50.0	109.3
加工食品・調味料	410	6.7	95.8	402	6.2	98.1
菓子・その他	484	7.9	116.3	502	8.0	103.8
合計	6135	100.0	95.1	6391	100.0	104.2

### 【食品の種類】

1. 清涼飲料水：茶系飲料、炭酸飲料、果実飲料、ミネラルウォーター、ゼリー飲料、コーヒー、粉末清涼飲料（インスタントコーヒー等）など
2. 乳製品：乳酸菌飲料、はっ酵乳など
3. 加工食品・調味料：大豆加工品、穀物加工品、食肉・魚肉加工品、調理油、マーガリン、マヨネーズ、調理酢、甘味料など
4. 菓子・その他：キャンディー、クッキー、ビスケット、チューインガム、ナタデココ、あられ、チョコレート、錠剤、粉末、顆粒、乾燥スープ、即席みそ汁、青汁など

### Ⅲ. 表示許可・承認の状況

#### 1. 表示許可・承認品目の推移

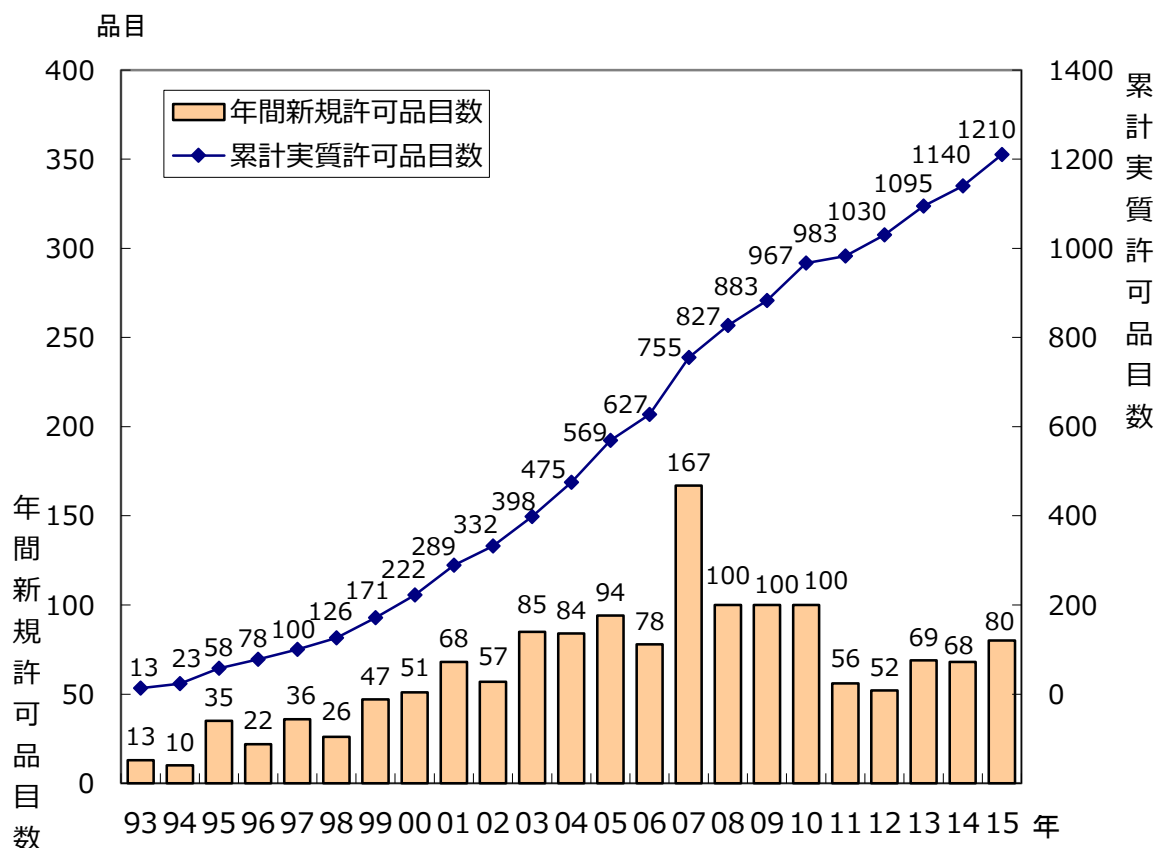
2015年12月末現在の表示許可・承認の品目総数は1210であった（図3）。

2015年1月から12月の1年間に表示許可を受けた特定保健用食品は80品目であった。

保健の用途別許可品目の内訳では、血糖値が21品目増と最も多く、続いて許可品目数の最も多い「整腸」が14品目増であり、歯関連が14品目増と続いた。「中性脂肪・体脂肪」は12品目増であった（表4）。

申請区分の内訳では、許可品目数の最も多い「特定保健用食品」は19品目増となり、2013年以来的増加であった（表5）。続いて許可品目数の多い「再許可等」は25品目増となり、前回、前々回と大幅に増加した「規格基準型」は25品目増となり、さらに増加した。

図3. 表示許可・承認品目の推移（2015年12月末現在）



\* 累計実質許可品目数 = 累計許可品目数 - 同失効品目数



表4. 保健の用途別許可品目の推移

年

保健の用途		1997	1999	2001	2003	2005
整腸	オリゴ糖	40	53	62	62	76
	乳酸菌	8	36	55	61	69
	食物繊維	24	32	50	70	104
	小計	72	121	167	193	249
コレステロール		12	14	37	52	86
血圧		4	9	24	38	64
骨・ミネラル		8	10	18	23	33
歯		3	5	13	26	34
血糖値		1	3	19	49	72
中性脂肪・体脂肪		0	9	11	17	31
合計		100	171	289	398	569

保健の用途		2007	2009	2011	2013
整腸	オリゴ糖	78	77	82	87
	乳酸菌	75	77	81	82
	食物繊維	144	169	192	208
	小計	297	323	355	377
コレステロール		114	136	139	146
血圧		88	110	119	126
骨・ミネラル		44	51	57	63
歯		58	68	75	86
血糖値		100	131	148	174
中性脂肪・体脂肪		54	64	90	123
合計		755	883	983	1095

保健の用途		2014	構成(%)	13比(数)	2015	構成(%)	14比(数)
整腸	オリゴ糖	88	8	+1	92	8	+4
	乳酸菌	83	7	+1	84	7	+1
	食物繊維	223	20	+15	232	19	+9
	小計	394	35	+17	408	34	+14
コレステロール		150	13	+4	155	13	+5
血圧		126	11	±0	126	10	±0
骨・ミネラル		59	5	△4	63	5	+4
歯		88	8	+2	102	8	+14
血糖値		189	17	+15	210	17	+21
中性脂肪・体脂肪		134	12	+11	146	12	+12
合計		1140	100	+45	1210	100	+70

品目

表5. 申請区分別許可品目の推移

年

	2007	2009	2011	2013
特定保健用食品	524	517	533	558
条件付き特定保健用食品	1	1	1	1
特定保健用食品（規格基準型）	16	28	47	80
特定保健用食品（疾病リスク低減表示）	5	10	14	16
特定保健用食品（再許可等）*	209	327	388	440
合 計	755	883	983	1095

	2014	構成(%)	13比(数)	2015	構成(%)	14比(数)
特定保健用食品	553	49	△5	572	47	+19
条件付き特定保健用食品	1	0	±0	0	0	△1
特定保健用食品（規格基準型）	110	10	+30	135	11	+25
特定保健用食品（疾病リスク低減表示）	14	1	△2	16	1	+2
特定保健用食品（再許可等）*	462	41	+22	487	40	+25
合 計	1140	100	+45	1210	100	+70

品目

\* 疾病リスク低減表示 12 含む

#### IV. むすび

総務省の家計調査では、2015年の総世帯の消費支出において、1世帯当たり1ヶ月平均の食料消費支出は61,833円となり、前年に比べ名目2.6%の増加、実質0.5%の減少となった。一昨年4月の消費税率引上げ以降の慎重な消費行動は継続しているが、2015年の総世帯の消費支出全体が名目で1.7%減少（実質2.7%減少）したのに対し、食料支出は名目では増加となった。

調査開始以来、2007年度をピークに減少し続けていた特定保健用食品の市場規模は、2013年度に大幅な回復を示した後、2014年度は消費税率アップの影響もありやや減少したが、2015年度は6391億円と再び増加し、過去2番目の規模に伸長した。

2015年の年間新規許可品目数は80品目、実質許可品目数の増加は70品目となり、2014年までの数年間に比較して、新規許可品目数、実質許可品目数ともに増加した。申請区分別では、「規格基準型」「再許可等」が、昨年に引き続き品目数の増加が多かったが、「特定保健用食品」も19品目増と2年ぶりに増加した。

トクホ制度発足以来、トクホ市場を牽引してきた「整腸」分野は、2014年度は減少したが、2015年度は主力の乳酸菌分野の回復により8.3%増と伸長した。またメタボリックシンドロームの診断基準に関連する保健の用途では、「血圧」は2014年度に続き減少したが、「コレステロール」、「血糖値」は回復傾向を示した。2011年度以降、顕著な伸びを示してきた「中性脂肪・体脂肪」は、2015年度はほぼ横ばいとなった。また2014年度にやや回復した「歯」分野は、2015年度も回復傾向が続いている。

販売経路別では、2014年度に比べ2015年度は「スーパー」は減少し、「戸配」、「コンビニ」は増加した。2013年度まで伸長を続けていた「ドラッグ・薬局」は2014年度に減少したが、2015年度はほぼ横ばいとなった。

特定保健用食品制度は、昨年6月に閣議決定された規制改革実施計画に基づき、審査手続きの見直しが進み、同時並行審査への移行、標準的事務処理期間の設定、議事録開示などの通知等が周知された。今年度も、引き続き規格基準型特保の要件見直しなどが予定されている。これらの審査の合理化・迅速化や規格基準型特保の拡充などにより、今後の特保商品開発の新たなチャレンジがなされ、申請数の増加、特定保健用食品市場の回復につながることを期待したい。健康食品全般においては、機能性表示食品制度が、昨年4月よりスタートし、届出品目数も着実に増加しており、今後特定保健用食品市場へどのような影響を及ぼすのか注目される。

当協会は今後も消費者庁をはじめ関係各省庁等の指導を得ながら、会員企業と協力して消費者に対する特定保健用食品の正しい使用方法等の情報提供を推進し、更なる普及に努めていきたい。

以上